

2017年度大学入試センター試験 解説〈倫理, 政治・経済〉

第1問 青年期・現代社会分野

問1 正解は⑧。

ア 「春」, 「ヴィーナスの誕生」などの作品を描いたのは, ルネサンス期に活躍した画家ボッティチェリ。セザンヌは, ポスト印象派と位置づけられる19世紀フランスの画家。

イ 山水図などで知られる水墨画の大成者は, 室町時代の禅僧・雪舟。尾形光琳は江戸時代に活躍した画家で, 装飾性の豊かさが特徴である。

ウ 「ゲルニカ」は, ナチス・ドイツがスペインのゲルニカを空襲したことに抗議してピカソが描いた大作。ゴッホは, セザンヌ同様にポスト印象派を代表するフランスの画家で, 「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこに行くのか」などで有名。

問2 正解は④。

④ 防衛機制のうち**逃避**とは, なすべき事柄を避けたいという無意識によって現れる現象。登校したくない子どもが, 登校時間が近づくにつれ腹痛を起こすなどは, この例。

① 防衛機制のうち**反動形成**の例。

② 防衛機制のうち**代償**の例。

③ 防衛機制のうち**合理化**の例。

問3 正解は③。

③ 40歳以上の各世代では, 四つの項目のうち**ア**(電子メールの送受信)だけが50%以上なのだから, この世代のインターネット利用者の半数以上が電子メールを利用しているのは明らかである。

① 「2番目に低い」と「3番目」についての記述は, それぞれ50歳代と60歳代で誤っている。したがって結論についての記述もおかしい。

② **ア**と**エ**の数値の差が世代とともに大きくなるという記述は誤っており, また仮にこれが正しいとしても, そこから結論のようなことは導けない。

④ 30歳以上の各世代で**イ**と**ウ**の数値が**エ**の2倍以上という記述は誤っており(30歳代), また仮にこれが正しいとしても, そこから結論のようなことは導けない。

問 4 正解は③。

- ③ 資料文の前半では、平等の度合いが強まるにつれて、人々が小さな不平等にも耐えがたくなるという傾向を指摘しており、後半では、このときに人々が市民の上に立つ強力な 1 人の権力者を是認しがちであるということを示している。トクヴィルは、ここで民主社会が独裁のような事態を招きがちであるという事態を指摘している。
- ① 「自分と異質な人を憎悪して視野から排除するようになる」が誤り。憎悪の対象は「異質な人」ではなく同等の市民であるにもかかわらず特権を持つ者であり、またそうした人を「視野から排除する」とも書かれていない。
- ② 「自分以外の人が自分と同等であることを憎悪する」が誤り。同等なはずであるにもかかわらず、特権がある者のことを憎悪するのである。
- ④ 「自己と同等の人だけを自分の隣人として認めるようになり」が誤り。同等な人のなかにも特権者がいるので、そうした人たちが憎悪と嫉妬を買うことになる。

問 5 正解は⑥。

- a キルケゴールが求めた人間のあり方は、神とただ 1 人で向き合う「単独者」。「超越者」は、ヤスパースが述べた限界状況において人が出会う包括者のこと。
- b ファシズムを支えた精神的基盤を探究したフランクフルト学派は、自分より下位の者には抑圧的となり、上位の者には従属しようとする大衆の「権威主義」的な性格がファシズムの背景にあると指摘した。
- c オランダの歴史家ホイジンガは、人間をホモ・ルーデンス(遊戯人)と呼び、「遊び」のなかに人間の文化を生み出す根源があると考えた。「工作」を重んじるのは、人間をホモ・ファーベル(工作人)と呼んだベルクソン。

第 2 問 源流思想・日本思想分野

問 1 正解は③。

- ③ バラモン教やウパニシャッド哲学では、生あるものはすべてその業(カルマ)に応じて転生するという輪廻思想が信じられており、この信念がカースト制を支えている。
- ① ウパニシャッド哲学では、自己の本質であるアートマン(我)が宇宙の本質であるブラフマン(梵)と一体であるという真理(梵我一如)を悟ることで輪廻から解脱できるとされる。
- ② 「六師外道」との批判はバラモン教によるものではなく、仏教によるもの。ヴェーダを批判する点ではブッダも六師外道も同じであるが、仏教から見て異端であることから「外道」と呼ばれた。
- ④ バラモン教は多神教である。

問2 □ 7 □ 正解は⑦。

- ア 誤文。法然は、誰もがひたすら「南無阿弥陀仏」と唱えることで、阿弥陀仏のいる西方極楽浄土に往生できると説いた。
- イ 誤文。道元はひたすら坐禅するべきことを主張し、公案は不要だとされた。
- ウ 正文。栄西は、坐禅とともに戒律も重視し、禅が国家を安寧にするものであるとする『興禅護国論』を著した。

問3 □ 8 □ 正解は②。

- ② 厳格な修養主義を説いた朱子学者・山崎闇斎は、内に対する敬と、外に対する義を強調した。垂加神道を開いたことでも知られる。
- ① 最後の部分「時期・場所・身分に応じた道徳的实践(時・処・位)」が誤り。これは朱子学と対立した陽明学の態度である。
- ③ 貝原益軒ではなく、雨森芳洲についての記述。
- ④ 佐久間象山は「東洋道徳, 西洋芸術」を謳い、技術においては西洋のものを取り入れつつ、道徳においては儒学を保持すべきだと考えた。

問4 □ 9 □ 正解は①。

- ① 誤文。確かに孔子は父母や家族への愛を強調するが、祖先への祭祀儀礼を批判したわけではない。一般に儒家は祖先崇拝を伝統としている。
- ② 正文。儒家における仁は孝悌の家族愛が基本であり、人類普遍への愛ではない。
- ③ 正文。孟子は五つの人間関係を五倫としてまとめた。父子の親, 君臣の義, 夫婦の別, 長幼の序, 朋友の信である。
- ④ 正文。朱子学では、天下を平らかにすることが個人の修養や家族の和合などの延長に位置づけられ、「修身・齊家・治国・平天下」と言われた。

問5 □ 10 □ 正解は①。

- ① 真言宗の僧・契沖は、『万葉集』を実証的に研究し、その注釈書として『万葉代匠記』を著した。
- ② 「儒学・仏教・神道を通して己の理想的な心のあり方を究明する心学」とは、町人道徳を説いた石田梅岩の石門心学のこと。
- ③ 本居宣長は、「ありのままの感情」を「抑制」するべきではなく、そのまま表現するべきとした。
- ④ 後半の「理想世界が差別と搾取の世界へ転じた」との記述は、自然世と法世についての安藤昌益の主張。

問 6 11 正解は④。

- ④ 柳宗悦^{むねよし}は名もなき職工の手になる日用品に「用の美」があるとして、それら「民芸」の意義を強調し、収集に努めた。
- ① 折口信夫についての記述。
- ② 沖縄民俗学を確立した伊波普猷^{いはふゆう}についての記述。
- ③ 哲学者・九鬼周造^{くき}についての記述。

問 7 12 正解は①。

- ① 本文で紹介されている源信、荻生徂徠、岡倉天心は、いずれも外来の思想や文化を背景に思索を開始した。しかし彼らは外来の思想や文化を無批判に受け入れたのではなく、それらを批判的に検討することにより、他国とも共有しうる思索となり得た、というのが本文の趣旨である。
- ② 本文で紹介されている思想家たちは、外来の思想・文化を無批判に受け入れ「模倣」してきたわけではない。
- ③ 本文で紹介されている思想家たちは、外来の思想・文化を「自国の価値観に基づいて」検討したわけではない。また彼らは「日本固有の思想や文化」を発見したのではなく、他国とも共有し得る多様な思索を展開したのである。
- ④ 後半が誤り。本文で紹介されている思想家たちは、必ずしも「外来思想の有する普遍性を賞賛」したわけではない。

第 3 問 源流思想・西洋近現代思想分野

問 1 13 正解は②。

- ② 古代ギリシアの自然哲学者の一人パルメニデスは、有と無を峻別し、一切の運動を否定した。
- ① 後半が誤っている。古代ギリシアの自然哲学者ヘラクレイトスは、万物の生成変化のうちに見られる法則性をロゴスと呼び、そこに調和した秩序が成立していると論じた。
- ③ アイデアの世界を「知ることができない」との点が誤り。プラトンは、アイデアの影である個物に出会うことを契機として、アイデアを想起することができる考えた。
- ④ ローマ帝国の皇帝であったマルクス・アウレリウスは、原子論ではなくストア派の哲学を信奉した。

問 2 14 正解は①。

- ① ルネサンス期を代表するモラリスト・モンテーニュは、『エッセー(随想録)』のなかで、

「私は何を知っているか(ク・セ・ジュ)」と自問し、自己の偏見や独断を吟味するとともに、寛容の精神を説いた。

- ② 『道徳感情論』を書いたアダム・スミスの立場についての記述。
- ③ 「生の悲惨さ」を背景に「気晴らし」に逃避する人間の性を指摘したのは、『パンセ』を書いたパスカル。
- ④ ピコ・デラ・ミランドラを念頭に置いた記述。人は自由意志によって「墮落した下等な被造物」になり得るが、自由意志によって神的な存在にもなり得るとされる。

問3 正解は①。

ア 『ユートピア』の著者であり、エラスムスの親友としても知られたトマス・モアについての記述。サン＝シモンは、産業者による社会を構想した空想的社会主義者。

イ サルトルの私生活上のパートナーであったボーヴォワールについての記述。引用されているのは、著書『第二の性』の有名な語句。シモーヌ・ヴェイユは、34歳で亡くなった20世紀前半の女性哲学者。過酷な工場労働を体験し、スペイン内戦の義勇軍に参加するなど、実体験を基にした思索を続けた。

ウ 20世紀アメリカを代表する哲学者ロールズについての記述。不遇な人々を抑圧しかねない功利主義を批判する「公正としての正義」を理論化した。サンデルは、ロールズの正義論が「負荷なき自己」を前提にしているとして批判したコミュニタリアニズムの代表的哲学者。

問4 正解は②。

- ② アウグスティヌスは、人間の救いがもっぱら神の恩寵(恵み、愛)によるものであることを強調するとともに、教会が地上の国における神の国の代理であると説いた。
- ①③ 神の恩寵は一方的に与えられ、かつ与えられるかどうかは予め決定されているものとした。善行や信仰によって恩寵を得ることができるという記述は誤り。
- ④ 教会による贖宥状の販売を批判したのは宗教改革のルター。

問5 正解は⑥。

- a 「道具主義」が入る。デューイは知性を問題解決のための道具とみなしており、自身の立場を道具主義と呼んだ。「道具的理性」は、フランクフルト学派のホルクハイマーらが近代的理性を批判する際に用いた概念。
- b 「創造的知性」が入る。デューイは問題解決能力としての知性を「創造的知性」と呼んだ。「投企」は実存主義の思想家たちが世界の状況のなかに自らを投げ込むことを指す。

- c 『民主主義と教育』が入る。デューイは教育思想にも多大な影響を与えている。『幼児期と社会』はエリクソンの著書。

問6 18 正解は②。

- ② 現象学を創始し、ハイデガーの師としても知られるフッサールは、実在についての素朴な信念について判断停止(エポケー)し、それらが意識にどのように現れているかを詳細に記述することに徹するべきだと論じた。
- ① ハイデガーの思想についての記述。
- ③ 前半はニーチェ、後半は作家カミュについての記述。
- ④ 3行目が誤り。フッサールの現象学は、不確実であった学問を確実な土台の上に据え直そうとする営みである。

問7 19 正解は③。

- ③ 第1段落で自然の探求と人間の探求が密接に関わっていることが指摘され、第1段落および最終段落で文系・理系の区別を自明視することなく自然と関わる人間について探求すべきであると論じられている。
- ① 「最も確実な自然科学を模範」として学問を再編すべきだというのは、本文の趣旨と正反対である。
- ② 人間に対する考察の独自性を際立たせるというのは、自然科学との「密接な関係のなかで」人間や社会が考察されてきたという本文の趣旨と合わない。
- ④ 「時代に左右されない人間の本質論」については本文で触れられていないし、エンゲルスらの立場と矛盾する。

第4問 政治・経済総合問題

問1 20 正解は④。

ア 民法は「社会法」ではなく「私法」である。文章化された成文法は、「私法」と「公法」さらに「社会法」とに分かれる。「私法」は民法・商法のような私人間を規律する法で、「公法」は憲法や刑法など国や地方公共団体と国民との関係を規律する法。そして「社会法」は、そのどちらにも分類できない新しい法領域で、社会問題の発生にともなって形成された法で、労働法・社会保障法・独占禁止法などの経済法などがそれである。

イ リード文から、法律は歴史的な背景や社会のあり方と密接に関連しているというのが趣旨と言える。

問 2 21 正解は③。

- ③ 需要の**価格弾力性**とは、ある商品の価格変化に対する需要の変化の大きさである。贅沢品の需要は価格の変化に敏感に反応するが、生活必需品は価格が上下しても需要は大きくは変化しない。
- ① **情報の非対称性**とは、消費者(需要者)よりも企業(供給者)の方が商品情報を多く持っていることである。完全競争市場では情報においても両者は対等である。
- ② **寡占市場**とは少数の企業が価格などの支配力を持つ市場である。単一企業の場合は**独占市場**といい、区別される。寡占の中でも二社の場合は**複占市場**ともいう。
- ④ 労働市場では労働力を売買するが、需要者(企業)は求人をし、供給者(労働者)は労働力を売る求職者である。

問 3 22 正解は⑤。

経済主体間の経済循環図では、政府に向かって入る A は「**租税・社会保険料**」で、政府から出ている C は「**社会資本**」。家計から企業に向かう B は「**資本**」である。

問 4 23 正解は①。

- A—ア 議会場の構成や協賛、**外見的立憲主義**の語から**日本**である。現在の国会議事堂は大日本帝国憲法の時代に作られたものである。
- B—イ 与野党の席が向かい合わせの配置、踏み越えてはいけない線(ソードライン=剣線)が引かれている内容から**イギリス**である。
- C—ウ 議席の位置から右翼・左翼の語源となった**フランス**である。「人は自由で平等なものとして出生する」という**フランス人権宣言**は 1789 年。

問 5 24 正解は④。

- ④ 日本国憲法で、天皇は「国政に関する権能を有しない」と明文化されており、国事行為のみ「**内閣の助言と承認**」に基づいて行い、「**内閣が、その責任を負う**」と記されている。
- ① 「**法律の範囲内**」の語は**大日本帝国憲法**の内容で、日本国憲法の内容ではない。
- ② 天皇が授けるのは**欽定憲法**。**民定憲法**は国民自らが制定したものである。また、天皇が元首または君主であるかは日本国憲法に規定はない。
- ③ **松本案**は GHQ に拒否され、マッカーサー三原則を基に GHQ が草案を作成し、帝国議会で審議、修正されて日本国憲法は成立した。

問 6 25 正解は①。

- ① 衆議院で**内閣不信任議案**が可決された場合、内閣は総辞職か衆議院の解散かの選択

を 10 日以内に選択しなければならない。

- ② 公聴会は重要な法案のみで、すべて義務づけられているわけではない。
- ③ 国会の弾劾裁判は裁判官を裁くもので、国務大臣の罷免は総理大臣の権限である。
- ④ 憲法に違反するかどうかは司法機関の権限である。憲法審査会は憲法改正を審議するために衆参両院に設置されている。

問 7 正解は②。

- ② 1986 年から 1991 年のバブル経済の時期に、土地などの有形非生産資産額が膨らんだ。
- ① 2008 年のアメリカのリーマン・ショックの時期には、国富は過去最高額にはなっていない。
- ③ 1991 年のバブル崩壊により、土地などの有形非生産資産額が激しく減少した。しかし、有形固定資産は増加傾向にある。
- ④ 1985 年のプラザ合意の時期には、有形固定資産額は有形非生産資産額より少ない。

問 8 正解は③。

- ③ 特定商取引法は、2000 年に訪問販売法から改正された。クーリングオフを定めた法律の一つである。
- ① 食品安全委員会は食品安全基本法(2003 年)により設置された。消費者基本法は 2004 年に消費者保護基本法から改正された。
- ② 2010 年施行の貸金業法改正により総量規制が導入され、グレーゾーン金利が撤廃された。
- ④ 2000 年制定のグリーン購入法は、消費者ではなく公的機関に対し、環境負荷低減に役立つ物品を率先して購入することを定めた。

第 5 問 民主政治

問 1 正解は④。

- ア 開発独裁とは、経済発展を優先するために、独裁的体制をとることをいう。
- イ アラブの春とは、2010 年末から 11 年にかけて、中東や北アフリカ地域で起きた一連の政治改革の総称をいう。プラハの春は、1968 年に起こったチェコスロバキアの民主化運動である。

問 2 正解は④。

- ④ 「表現の自由」は行動を伴うため、プライバシーの権利など、他者の権利との衝突がありうる。そのため人権の制約がありうるが、明確な判断基準が求められる。「二重基

準論」によると「経済的自由」に比べて「精神・表現の自由」に優位性を与え、厳格な基準で評価されるため違憲判決が出やすくなるといわれる。

- ① 三菱樹脂事件は私人間での人権保障をめぐる事例。最高裁の判例では、企業の思想・信条の自由を理由に、解雇は違法とは言えないとして、高裁に差し戻したが、和解が成立した。
- ② 経済活動の自由は、「公共の福祉に反しない限り」の条件が付いている。
- ③ 津地鎮祭訴訟では、地鎮祭自体が一般的慣習に従う習俗で宗教行事ではないとして合憲判断がなされた。政教分離については、愛媛玉ぐし料訴訟、空知太神社訴訟の2件で最高裁の違憲判決が出ている。

問3 30 正解は③。

- ③ 国民投票において有効投票の過半数の賛成があれば、憲法改正は成立する。
- ① 憲法改正のための国民投票法は、第一次安倍政権下の2007年に制定された。
- ② 国民投票法では、投票年齢を満18歳以上としたが、公職選挙法が改正されるまでは20歳以上としていた。現在では公職選挙法が改正され、投票年齢は満18歳以上に引き下げられている。
- ④ それぞれ総議員の3分の2以上の賛成が必要である。

問4 31 正解は②。

- ② 2005年が小泉首相の衆議院解散後の選挙の時期で、グラフでは選挙が国政に影響しているとした数値が増加している。
- ① 小選挙区比例代表並立制が1996年の総選挙で初めて行われた後、グラフはむしろ減少している。
- ③ 消費税導入(1989年)後、デモの影響については微減している。
- ④ ロッキード事件(1976年)後の調査では、デモが国政への影響ありとする数値が減少している。

問5 32 正解は④。

- ④ 国の情報公開法制定は1999年、それ以前に情報公開条例は山形県の金山町と神奈川県で1982年に制定された。
- ① 首長は議会の決議に対し拒否権(再議権)を行使できる。
- ② 条例で定める住民投票は公職選挙法に拘束されないため、外国人の投票や未成年者の投票が認められた例がある。
- ③ 事務監査請求は、首長ではなく監査委員に請求する。有権者の50分の1以上の署名が必要である。

第6問 貨幣

問1 33 正解は①。

- ① 現金・預貯金・有価証券(株式や債券)などの家計が持つ金融資産は、日本は約52.3%で、アメリカ13.9%と好対照である。ユーロ圏でも34.8%である(2016年)。
- ② 間接金融は、企業が銀行を介して資金調達すること。直接金融は株式や社債などによる資金調達である。直接金融が増加傾向にあるが、現在でも間接金融の方が割合が大きい。
- ③ ノンバンクとは、預金などを受け入れる預金業務をせず、貸付業務だけを行う金融業者で、サラ金、リース会社、クレジット会社などをいう。
- ④ 信用創造とは、銀行が信用貨幣を創造することである。預金・貸付の繰り返しによって、銀行機構全体として預金(本源的預金)の何倍かの貸し付けを行う。企業の返済は直接には関係がない。

問2 34 正解は③。

- ③ 原材料費の高騰や賃金上昇など、企業のコスト面のプッシュ(押し上げ)によるインフレーション。
- ① スタグフレーションとは、不況(スタグネーション)下での物価上昇(インフレーション)の同時進行現象をいう。
- ② デフレスパイラルとは、不況による物価下落(デフレーション)が、また不況の原因になりスパイラル(らせん)状の悪循環を起こすこと。
- ④ 需要が供給を上回って起こるインフレを、ディマンド(需要)・プル(引き上げ)インフレーション(物価上昇)という。

問3 35 正解は②。

- ② プライマリーバランスとは、歳出と歳入で借金部分を除外した正味額で黒字かどうかを見る。つまり、新たな借金をするか否かが論点になる。1990年度のプライマリーバランスは、歳出が66兆円－14兆円(借金返済)＝52兆円が正味歳出額。歳入は66兆円(税収)－6兆円(追加借金)＝60兆円が正味の歳入額。したがって、正味歳出額52兆円に対し正味歳入額60兆円で**8兆円の黒字**である。
- ① 1980年度の公債依存度は、43兆円の税収に対し公債発行が14兆円。32.5%の依存度。
- ③ プライマリーバランスは、正味歳出額 $85 - 22 = 63$ 、正味歳入額 $85 - 33 = 52$ で、11兆円の赤字(借金増)となる。
- ④ 2000年度の公債依存度は、92兆円の歳入のうち44兆円の公債金で47.8%を占める。当然、プライマリーバランスは、正味歳出額 $92 - 21 = 71$ 、正味歳入額 $92 - 44 = 48$ 、 $71 - 48 = 23$ の赤字。つまり新たな国の借金が追加されている。

問4 正解は②。

Aは1957年, Bは1998年, Cは2002年, Dは1993年で, 3番目はBである。
EEC発足が一番古く, ユーロ紙幣の流通が一番新しいのはすぐ分かる。ECBの設立とEUの発足では, EUが先でECBがその後であることを押さえておこう。

問5 正解は④。

需要供給曲線のシフト要因を整理すると, 供給曲線は原材料費上昇や③増税などのコスト上昇で上方シフト, コスト下落や生産性向上などで下方シフトする。④の生産性向上の場合, 需要曲線が不動なら需要曲線上を右下にスライドしB点で均衡する。

他方, 需要曲線は①所得上昇, ②人気の高まりなどで全体的に上方に移動(シフト)する。供給曲線が不動なら, 均衡点Aは供給曲線上を右上にスライドする。